



知内町版「農福連携」 農業分野で最大限の活躍を目指す

町の基幹産業である農業における労働力不足と施設利用者の就労支援をマッチングし、知内町版農福連携の可能性を検証するため、9月16日に株式会社やまみファーム(上雷)でニラの捨て刈り(掃除刈り)^{※1}などの農作業が実施されました。

ニラの香りに包まれたハウス内の室温は高く、額に汗を浮かべながらの作業となりました。その中でも速いペースで作業が進行し、今後の活躍が期待できる取り組みになりました。

※1 葉の生育や品質を整えるため、伸びていた葉を刈り取ること。

知内町版「農福連携」に向けた取り組み
あすなる福祉施設利用者が農作業を行いました

農福連携とは？

農福連携は障がい者等が農業分野で活躍することを通じて、自信や生きがいを持って社会参画を実現していく取り組みです。

近年、農福連携の取り組みは、施設利用者等の就労や生きがいづくりの場を生み出すだけでなく、担い手不足や、高齢化が進む農業分野において、新たな働き手の確保につながるなど、相乗効果が期待されています。



Interview

松崎 光一

社会福祉法人あすなる福祉会
統括施設長

常に新分野を開拓していく必要があるため、今まで参入したことの無い農業という分野に注目しました。農業は「自分たちのものを自分たちで生産する」ということが可能であり、担い手不足とうまくマッチングすれば施設利用者の働く場を創出する点でも良いと考えています。

将来的に農福連携を実現するためにどのような課題があるのかを洗い出し、施設利用者が働きつつ自立を目指せるようにしたいです。





トマトファームで収穫体験

真っ赤なトマトと輝く笑顔

一般社団法人しりうち観光推進機構が運営する「トマトファーム」で9月15日、知内保育園児15名がまさに旬を迎えたトマトの収穫を体験しました。

枝からトマトを採る方法を同法人担当者に教えてもらい、小ささまざまなトマトを収穫した園児たちは「これ大きいでしょう!」と自分の手で採ったトマトを自慢気に先生に見せていました。袋いっぱいになるほどトマトを収穫した園児はその重みを感じつつ、自分の手でもぎ取る感触を楽しんでいる面持ちでした。

収穫体験は10月15日まで受付していますので、同法人(☎5・6161内線41)へお申し込みください。



企業版ふるさと納税にかかる感謝状贈呈式 株式会社高木組からご寄附いただきました

贈呈式 9月17日



中田俊一郎取締役社長(左)、
西山町長

企業版ふるさと納税とは、平成28年4月に内閣府により創設された、企業の皆様が地方の活性化を応援する制度です。

今回、株式会社高木組(函館市)より、100万円のご寄附をいただきました。

いただいたご寄附は学習環境の充実をはじめ、知内高校の魅力化のため大切に活用させていただきます。

スピーディな体温測定が可能に 函館法人会知内支部より体温測定機寄贈

寄贈式 8月20日



岡田支部長(左)、本間教育長

新型コロナウイルスへの感染を予防し、児童生徒が安心安全に過ごしてほしいと願いを込めて、8月20日、公益社団法人函館法人会知内支部岡田敬司支部長から体温測定機が寄贈されました。モニターの前に立つと自動で体温を計測されるこの装置は知内町青少年交流センターに設置されます。